

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

| | |
|------------------|-------------------|
| 平成 27 年 6 月 10 日 | |
| 所属部局・職 | 野生動物研究センター・修士課程学生 |
| 氏名 | 水越 楓 |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 北海道・羅臼 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| 北海道沿岸に来遊するシャチの音響研究 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 27 年 5 月 26 日 ~ 平成 26 年 6 月 2 日 (8 日間) |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 北海道シャチ大学連合 |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 今回の出張では、北海道羅臼沖に出没するシャチの個体識別及び鳴音の録音を試みるために渡航した。スケジュールは5/25に羅臼入り、26~6/1の六日間乗船、2日に帰京というものであった。 |
| 船のチャーターは6日間の予定であり、全日出航することが出来た。6:30 出航、基本的には16:00~16:30 帰港であった。調査は尾田建設の協力で、観光船”はまなす”にて行った。今まで通り、曳航式マイクによる音声データの録音、ID 写真の撮影を行った。加えて今回は詳細な行動記録データを取ることを試みた。 |
| 5/27：二群遭遇 午前、他船が発見したシャチの群れを追跡。群れは始めから散っており、そのうち4頭が船について、遊び行動や船の様子を見る行動も見られた。音声は多く発せられていたようだ。徐々に合流していく様子が見られ、最終的には12~15頭の群れとなっており、音声は発しなくなっていた。 午後、再び他船からの情報にて、クジラの子供を捕食しているシャチの群れへと移動した。6頭の群れで、餌のクジラの近くにオスがおり、その周囲を他のシャチが囲んでいる様子であった。頻りにスパイホップをみせる個体があり、周囲の観光船の影響があったと考えられる。クジラはほぼ傷が見られない状態であったが、最終的には腹が裂け、内臓が見えるほどになっていた。 |
| 5/28：二群遭遇 前日の午前に遭遇した群れを観察した。元から群れは散っており、港方向に泳いでいたため、他の群れへと移動した。二群目ははじめ船の近くにて7頭並んで浮上し、同調して泳いでいたが、徐々にばらけていった。こちらの群れは船をのぞいたりする行動は見られなかった。船を避けていたためレッコし、港方向へ行った群れを追跡した。午前に観察した時と比べると、テイルスラップやスパイホップなど社会行動が増えた印象であった。 |
| 5/29：一群遭遇 朝から昼にかけてかなりの濃霧で、目視による探鯨が不可能であった。ツチクジラの群れを発見するも接近には失敗した。他船からシャチ情報を得て、移動。発見した際、すでに日露中間線付近であったため、ID 写真や行動状態の記録は取れず、音声のみ録音した。 |
| 5/30：発見なし 一日中濃霧により、探鯨不可能であった。発見はイシイルカー群のみで早めの帰港となった。 |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

5/31

前日同様濃霧であったが、中間線付近にて国後側にシャチを発見。先回りし、羅臼側にて再発見し、観察を開始した。小雨であったが徐々に本降りとなり視界は不良のままであった。船につく個体と、少し離れて平行に泳ぐ個体が左右にいるというフォーメーションをずっと保っていた。風が強くなり観察続行不可能と判断し、早めに帰港した。

6/1

7時前に発見し、一群を 15:30 まで長い時間観察することが出来た。母と子がじゃれあう様子や、授乳をしている様子がみられた。またオスがメスを追いかけて、生殖器をだし交尾しようとしている様子も長時間観察することが出来た。

昨年度の羅臼は、全体を通してシャチの来遊が少なかったが、今年度は平年通りといった様子で、徐々に複数の群れが海峡に入ってきている印象を受けた。行動記録も 7 群記録でき、音声データも 20 時間超とることができた。6 月末に同様に六日間の調査を予定しているが、それまでシャチがこの海域に滞在していてくれることを願う。



写真 1：水中から泡を出す様子や、右端の海藻で遊ぶ様子が観察された。(5/27)



写真 2：ひっくり返って泳ぐ、他個体と接触する行動が良く見られた。(5/28)

6. その他 (特記事項など)

斎野重夫さま、観光船はまなすの浜松貢船長、ガイドの杉田知香さま、知床ネイチャークルーズのみなさまに感謝いたします。